

第8回国際ナノテクノロジー会議（INC8）が 筑波で開催され、わが国の元気を印象付けました

電子デバイス部



ナノテクノロジーは、情報通信、ライフサイエンス、環境・エネルギー等多く
の分野で大きく貢献するものと期待されて
います。このようなナノテクノロジー
の重要性に鑑み、INC (International
Nanotechnology Conference on
Communication and Cooperation) は、
ナノテクノロジーの最新動向・将来の方向
について議論するとともに、国際的な協
力・交流を推進するための国際会議とし
て、2005年から活動を開始しました。

INCには、日米欧から、ナノテクノロ
ジー政策立案者、研究者、企業のキーパー
ソン等が集まり、議論と交流を行っており
ます。INC8ではわが国からは、政府とし
ては総合科学技術会議 / 内閣府、文部科学
省、経済産業省、公的研究機関としては
(独) 物質・材料研究機構 (NIMS)、(独)
産業技術総合研究所 (AIST)、産業界とし
ては一般社団法人電子情報技術産業協会
(JEITA)、(社) ナノテクノロジービジネ



ポスターセッション

ス推進協議会 (NBCI) および企業、大学
としては筑波大学、東京大学、東京工業大
学、等が参加しました。

開催については、日米欧の持ち回りで、
年1回開催されてきました。

INC7は2011年5月につくば国際会議場
で開催する予定でしたが、3月11日の東日
本大震災の影響を受けて、急遽、開催場所
を米国に変更し、代わりに、INC8は日本
開催となりました。

JEITA 半導体技術委員会 INC-WG (国
際ナノテクノロジー会議ワーキンググルー
プ) は、オーガナイザー参画機関の一つと
して、INC8の企画・運営に積極的に貢献
しました。

今回の基調講演は、“Nanocarbon
Materials: Their Science and
Technology” と題し、カーボンナノチュー
ブの発見者として高名な名城大学教授飯
島澄男氏より、約1時間にわたってご講演
頂きました。



飯島澄男氏 基調講演

本基調講演は、無料で開放され、近隣の研究所から大勢の研究者が聴講されました。スマートフォンを示しながら、カーボンナノチューブが既に実用化されていること、また将来的にも導電膜等への応用が期待できることを語り、一つの材料の与える大きなインパクトを情熱的に話されました。

他には、日米欧3極のナノテクノロジー研究開発状況、特にグリーンナノテクノロジー分野において、日米欧の最先端研究開発に関する情報交換を行い、さらに今後の

国際連携の可能性についても議論しました。

また、これら講演と併催でポスターセッションも開かれ、1日目76件、3日目51件の合計127件の展示があり、非常に活発なセッションとなりました。これら127件のうち、日本からの発表は96件を占め、また発表者の目も輝いており、わが国が元気を取り戻したことを強く印象付けました。

INC8のその他の結果を含む概要は以下の通りです。

1. 会議名称：The Eighth International Nanotechnology Conference on Communication and Cooperation (INC8)
2. 開催期間：2012年5月8日（火）～11日（金）
3. 開催場所：AIST つくば中央 共用講堂
4. 参加者数：226名。内訳は、日本189名、米国20名、欧州15名、韓国1名、オーストラリア1名。
5. 参画機関：日本：NIMS, AIST, JEITA, NBCI, 筑波大学
米国：NSF, NIST, SIA, SRC
欧州：European Commission, CEA/LETI, Fraunhofer, IMEC, ENIAC

次回 (INC9) は、2013年5月14日（火）～17日（金）に独国ベルリンで開催予定です。



講演風景



優秀ポスター表彰式



ディナー